

文学部生の

リアルな! 学生生活

vol.15



教職課程での模擬授業の準備

文学部生のリアルな学生生活の様子を掲載し、ご父母の皆さまに文学部生の充実したキャンパスライフの風景、また文学部ならではの取り組み等の情報を発信いたします。

教育学専攻の強みとは

私が所属している教育学専攻では、教育史学、教育社会学、社会教育学、教育行政・制度学、教育哲学、多文化・国際理解教育学と、実にさまざまな分野の先生方が在籍しており、各分野にまたがる「教育学」という学問を多面的・多角的に考察することができる。教員養成という観点はもちろん、教育学の根本まで深く考えることができる。そんな文学部人文社会学科教育学専攻での

4年間の学生生活を、この機会に振り返ってみたい。

教育実習で学びを活かす

まず、教育学専攻で私が特に注力してきた活動は、教職課程の履修である。教育学専攻であるがゆえに、教育学という学問を深く考え学んだうえで、教職課程を履修する意義は非常に大きかった。入学当初は、「子どもが

好き」という理由だけで教員を志望していた。しかし、教育学を専攻していくなかで、「なぜ教育をするのか」「自分はどんな教育をしたいのか」「子どもたちは何を考えているのか」を大学で学び、そして常に考えながら2017年度の教育実習にも臨むことができた。教育実習では、結果として生徒からも先生方からも高評価をいただき、半年以上経った現在でも、実習校との交流が続いている。

4年間の大学生活で得たこと

大学生活全般を通して振り返ると、私は4つのサークルに所属し、それぞれのサークル活動に励んでいたことも大きい。幼いころから続けてきた卓球。2年次に代表を経験し、何事も試行錯誤だったバレーボール。参加する頻度は少なかったが、飲み会や合宿で新たな仲間と出会えた体操。どれも思い入れが強いが、なかでも最も多くの時間を割いたのは、書道である。特に、毎年の白門祭で披露する大迫力の書道パフォーマンスに魅了され、今では、私といえば書道パフォーマンスといえるほどに力を注いできた。

2017年10月には、当時文学部長であった心理学専攻の都筑教授からお

文学部・教育学専攻ならではの
キャンパスライフ
自らの強みと
好奇心を活かし、
道を切り拓く楽しさ

いちかわ ゆうた
市川 雄大

文学部人文社会学科教育学専攻4年
私立中央大学附属高校(東京都)出身



教育学共同研究室にて

声がけいただき、「文学部パフォーマンススウィーク」と題して、大学で初めて、白門祭以外で書道パフォーマンスを披露した。サークルとしてではなく個人として依頼されたため、イベントの実行委員も兼ねながら、人員確保や備品発注、イベントの主催・準備など、サークルとしての慣例のない、どれも初めてで骨のある経験だった。集まってくれたチームのメンバーはもちろんのこと、何より文学部事務室の皆さんによる全面的なバックアップが非常に大きく、多くの方のご支援のおかげで無事にイベントは成功した。大



文学部書道パフォーマンスの様子

学におけるイベントの主催に携われたことは非常に貴重であり、今年から社会人としての一步を踏み出す私にとって、何にも代え難い経験となった。

社会で経験を積み、教員に

以上のように、私は教育学専攻で学びを深めつつ、文学部の学生として自己実現の機会も得ることができ、学生生活をより豊かにすることができた。将来は、大学での経験を活かして教育系のベンチャー企業で働き、社会人としての経験を積んだのち、教員になりたいと思っています。



一緒にイベントを盛り上げてくれたメンバーと都筑教授(左端が筆者)

ご挨拶

文学部事務室

神山弘樹



皆

さま初めまして、新人職員
の神山弘樹と申します。

私は「人の人生の可能性を広げる
場で働きたい」という思いで、大学

職員という仕事を選びました。4年間の大学生活は人生を形作るうえで最も影響力のある場所だと思うからです。私自身は、学生時代に難民支援活動と小学校での教育ボランティアに特に力を入れていました。そこで出会った人や学びは、私の世の中に対する視野を確実に広げてくれましたし、人生には数え切れないほどの可能性があることを教えてくれました。ご子女におかれましても、ここ中央大学でぜひ多くの挑戦をしていただき、考え、社会に羽ばたいていってほしいという思いで日々仕事に取り組んでおります。

時の流れは早いもので、気づけば2017年4月の入職から1年が過ぎ去ろうとしています。私の主な担

当業務は「各学期試験、資格課程、教室管理」ですが、ほかにも覚える仕事は多く学びの毎日です。

事務室では教員と授業に関する相談やご父母からのお問い合わせ、学生からの質問などさまざまな方と関わりながら、職員一丸となって仕事を進めています。学生生活における悩みや質問などがございましたら、ぜひお気軽に事務室へいらしてください。

私の今後の目標は、担当業務以外の仕事も理解し、本学の発展のために尽くすことのできる職員にいち早くなることです。そして、学生の皆さんが多様な価値観や考え方を理解し、卒業後の人生に役立てられるようなプログラムや、イベントの創出に関わっていきたくと考えています。これからもどうぞよろしくお願ひ申し上げます。